

令和6年度

甲州市公営企業会計決算審査意見書

甲州市監査委員



# 目 次

1	審 査 の 対 象	1
2	審 査 の 期 間	1
3	審 査 の 方 法	1
4	審 査 の 結 果	1

## 水 道 事 業 会 計

(1)	業 務 の 実 績 に つ い て	2
(2)	予 算 の 執 行 状 況 に つ い て	3
(3)	経 営 成 績 に つ い て	5
(4)	財 政 状 況 に つ い て	6
(5)	資 金 収 支 の 状 況 に つ い て	8
(6)	審 査 所 見	9

## 下 水 道 事 業 会 計

(1)	業 務 の 実 績 に つ い て	10
(2)	予 算 の 執 行 状 況 に つ い て	11
(3)	経 営 成 績 に つ い て	13
(4)	財 政 状 況 に つ い て	14
(5)	資 金 収 支 の 状 況 に つ い て	16
(6)	審 査 所 見	17

## 勝 沼 ぶ だ う の 丘 事 業 会 計

(1)	業 務 の 実 績 に つ い て	18
(2)	予 算 の 執 行 状 況 に つ い て	19
(3)	経 営 成 績 に つ い て	21
(4)	財 政 状 況 に つ い て	22
(5)	資 金 収 支 の 状 況 に つ い て	23
(6)	審 査 所 見	24

## 勝沼病院事業会計

(1) 業務の実績について . . . . .	25
(2) 予算の執行状況について . . . . .	26
(3) 経営成績について . . . . .	28
(4) 財政状況について . . . . .	29
(5) 資金収支の状況について . . . . .	30
(6) 審査所見 . . . . .	31

(注)

- 1 文中及び各票の数値は、原則として表示単位未満を四捨五入している。従って内訳と合計が一致しない場合がある。
- 2 構成比(%)は、原則として小数点第2位を四捨五入している。従って構成比の合計が100とならない場合がある。
- 3 文中に用いている、ポイントとは、パーセンテージ間の差引数値である。
- 4 収入率とは、予算現額に対する収入済額の割合で、収納率とは、調定額に対する収入済額の割合で、執行率とは、予算現額に対する支出済額の割合である。
- 5 ( 0 )……………算式上0となるもの又は予算措置されたが、執行されなかったもの  
( 0.0 )……………該当数値があるが単位未満のもの  
( - )……………該当数値のないもの  
( △ )……………減少または不足  
( 皆増 )……………前年度に該当数値がなく、当年度に全額増加したもの  
( 皆減 )……………前年度に該当数値があり、当年度に全額減少したもの



# 令和6年度甲州市公営企業会計決算審査意見

## 1 審査の対象

令和6年度 甲州市水道事業会計決算  
令和6年度 甲州市下水道事業会計決算  
令和6年度 甲州市勝沼ぶどうの丘事業会計決算  
令和6年度 甲州市勝沼病院事業会計決算

## 2 審査の期間

令和7年5月20日から令和7年6月27日まで

## 3 審査の方法

審査に付された各事業会計の決算報告書、事業報告書及び財務諸表について、関係法令に準拠して作成されているかどうかを確認し、これらの計数を検証するため、証憑書類、関係諸帳簿等との照合等を行うとともに、関係職員から内容を聴取し、審査を行った。

## 4 審査の結果

審査に付された各事業会計の決算報告書及び財務諸表は、関係法令に準拠して作成されており、その計数は関係諸帳簿、証憑書類と符合し、誤りのないものと認められた。

また、当事業の当年度の経営成績及び当年度末の財政状態を適正に表示しているものと認められた。

予算執行及び事務処理については、一部の会計に留意、改善されたい事項があるものの概ね適正に処理されているものと認められる。

なお、審査の概要は次のとおりである。



## 水道事業会計

### (1) 業務の実績について

業務実績は、以下に示すとおりである。

#### 業務実績比較

区 分	単位	令和 6 年度	令和 5 年度	比較増減
総 人 口	人	28,892	29,411	△519
給 水 区 域 内 人 口	人	28,554	29,106	△552
給 水 人 口	人	27,968	28,516	△548
対 給 水 区 域 内 人 口 普 及 率	%	97.95	97.97	△0.02
給 水 戸 数	戸	11,634	11,723	△89
総 配 水 量	m <sup>3</sup>	3,901,413	3,959,534	△58,121
有 収 水 量	m <sup>3</sup>	3,018,130	3,059,819	△41,689
有 収 率	%	77.36	77.28	0.08
配 水 管 延 長	m	332,718	331,849	869
1 m <sup>3</sup> 当 り 給 水 原 価	円	309.67	290.22	19.45
1 m <sup>3</sup> 当 り 供 給 単 価	円	163.74	163.38	0.36

備考 給水戸数及び給水人口は、各年度末の数である。

今年度、上水道区域の給水戸数は11,634戸、前年度と比較すると89戸減少している。  
 また、給水人口は27,968人と前年度比548人の減である。  
 総配水量は3,901,413 m<sup>3</sup>で、前年度比58,121 m<sup>3</sup> (1.47%) の減である。有収水量も3,018,130 m<sup>3</sup>で、前年度比41,689 m<sup>3</sup> (1.36%) の減で、有収率は77.36%で前年度比0.08%向上している。  
 給水原価は、1 m<sup>3</sup>当り309円67銭で、前年度比19円45銭 (6.7%) の増であり、その要因は、経常費用の増加、有収水量が減少したことによるものである。  
 また、供給単価は、1 m<sup>3</sup>当り163円74銭で前年度比36銭 (0.22%) の増であり、その要因は、有収水量が減少したことにある。

(2) 予算の執行状況について

予算及び決算の内容は、以下に示すとおりである。

なお、下記の表の金額には、消費税及び地方消費税が含まれている。

収益的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額の比較増減	収入率(B)/(A)
水道事業収益	1,014,003,000	1,035,009,346	21,006,346	102.1
営業収益	593,085,000	569,140,040	△23,944,960	96.0
営業外収益	420,907,000	465,869,306	44,962,306	110.7
特別利益	11,000	0	△11,000	0

収益的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	不用額	執行率(B)/(A)
水道事業費用	1,007,315,000	961,135,558	46,179,442	95.4
営業費用	945,533,000	913,402,286	32,130,714	96.6
営業外費用	55,159,000	44,985,220	10,173,780	81.6
特別損失	2,901,000	2,748,052	152,948	94.7
予備費	3,722,000	0	△3,722,000	0

事業収益は 1,035,009,346 円（うち仮受消費税及び地方消費税 50,474,231 円）で、予算額と比べ 21,006,346 円（2.1%）の増であり、事業費用は 961,135,558 円（うち仮払消費税及び地方消費税 40,580,664 円）で、予算額に対し 46,179,442 円（4.6%）の不用額が生じている。

## 資本的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額の比較増減	収入率(B)/(A)
資本的収入	385,482,000	368,788,957	△16,693,043	95.7
企業債	257,800,000	251,000,000	△6,800,000	97.4
補助金	92,960,000	92,000,000	△960,000	99.0
負担金	7,271,000	7,524,000	253,000	103.5
補償金	27,450,000	18,264,957	△9,185,043	66.5
固定資産売却	1,000	0	△1,000	0

## 資本的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	翌年度繰越額	不用額	執行率(B)/(A)
資本的支出	700,687,000	653,107,103	0	47,579,897	93.2
建設改良費	460,047,000	412,468,160	0	47,578,840	89.7
企業債償還金	240,640,000	240,638,943	0	1,057	100.0

資本的収入は 368,788,957 円で、予算額と比べ 16,693,043 円 (4.3%) の減であり、資本的支出は 653,107,103 円で、予算額に対し 47,579,897 円 (6.8%) の不用額が生じている。

### (3) 経営成績について

経営損益の状況は、以下に示すとおりである。

#### 比較損益計算書

(単位：円・%)

科目	区分	令和6年度 決算額	令和5年度 決算額	比較増減	前年度に対する 比率
水道事業収益		991,523,550	1,034,381,941	△42,858,391	95.9
	営業収益	518,705,265	577,035,558	△58,330,293	89.9
	営業外収益	472,818,285	457,346,383	15,471,902	103.4
	特別利益	0	0	0	—
水道事業費用		946,460,070	945,052,760	1,407,310	100.1
	営業費用	872,847,009	880,919,269	△8,072,260	99.1
	営業外費用	70,890,396	63,847,171	7,043,225	111.0
	特別損失	2,722,665	286,320	2,436,345	950.9
当年度純利益		45,063,480	89,329,181	△44,265,701	50.4

経営成績は、決算書の損益計算書のとおり事業収益は991,523,550円で、前年度比42,858,391円(4.1%)の減であり、事業費用は946,460,070円で、前年度比1,407,310円(0.1%)の増である。その結果、本年度の純利益は45,063,480円である。

#### ア 収益

営業収益は518,705,265円で、前年度比58,330,293円(10.1%)の減である。

詳細は、給水収益5,708,253円、その他営業収益54,999,240円の減、受託工事収益2,377,200円の増である。

営業外収益は472,818,285円で、前年度比15,471,902円(3.4%)の増である。

詳細は、受取利息及び配当金171,927円、雑収益6,263,046円、他会計補助金10,234,000円の増、長期前受金戻入1,197,071円の減であり、引当金戻入は同額である。

#### イ 費用

営業費用は872,847,009円で、前年度比8,072,260円(0.9%)の減である。

詳細は、配水及び給水費24,516,925円、総経費5,501,442円、資産減耗費5,842,185円の増、原水及び浄水費588,000円、受託工事費41,110,528円、減価償却費2,234,284円の減である。

営業外費用は70,890,396円で、前年度比7,043,225円(11.0%)増である。

詳細は、支払利息及び企業債取扱諸費1,653,979円の減、雑支出8,697,204円の増である。

特別損失は2,722,665円で、前年度比2,436,345円(850.9%)の増である。

#### (4) 財政状況について

財政の状況は、以下に示すとおりである。

比較貸借対照表

(単位：円・%)

科目	区分	令和6年度 決算額	令和5年度 決算額	比較増減	前年度に対 する比率
借方(資産)		8,733,705,753	9,011,126,772	△277,421,019	96.9
	固定資産	8,006,171,768	8,011,174,253	△5,002,485	99.9
	流動資産	727,533,985	999,952,519	△272,418,534	72.8
貸方(負債・資本)		8,733,705,753	9,011,126,772	△277,421,019	96.9
	固定負債	3,380,216,790	3,376,731,486	3,485,304	100.1
	流動負債	346,553,904	554,471,734	△207,917,830	62.5
	繰延収益	2,689,647,004	2,742,721,485	△53,074,481	98.1
	資本金	1,779,236,367	1,779,236,367	0	100.0
	剰余金	538,051,688	557,965,700	△19,914,012	96.4

財政状況は、決算書の貸借対照表のとおり、資産合計及び負債・資本合計は共に8,733,705,753円であり、前年度比277,421,019円(3.1%)の減である。

#### ア 資産

固定資産は8,006,171,768円で、前年度比5,002,485円(0.1%)の減である。

詳細は、土地236,824円、建設仮勘定が238,463,040円の増で、建物10,275,762円、構築物219,722,574円、機械及び装置13,297,961円、車両及び運搬具264,680円、工具器具及び備品141,372円の減である。

流動資産は727,533,985円で、前年度比272,418,534円(27.2%)の減である。

詳細は貯蔵品957,191円、前払金913,000円の増、現金預金200,211,835円、未収金74,076,890円の減である。

#### イ 負債

固定負債は3,380,216,790円で、前年度比3,485,304円(0.1%)の増である。

詳細は、企業債5,685,304円の増、引当金2,200,000円の減である。

流動負債は346,553,904円で、前年度比207,917,830円(37.5%)の減である。

詳細は企業債4,675,753円、引当金87,000円、預り金724,662円の増、未払金213,405,245円の減である。

繰延収益は2,689,647,004円で前年度比53,074,481円(1.9%)の減である。

詳細は、長期前受金127,376,345円の増、長期前受金収益化累計額180,450,826円の減である。

## ウ 資本

資本金は1,779,236,367円で前年度と同額である。

剰余金は538,051,688円で、前年度比19,914,012円(3.6%)の減である。

詳細は、資本剰余金1円で前年度と同額、当年度未処理欠損金19,914,012円の減である。

## (5) 資金収支の状況について

資金収支の状況は、次表のとおりである。

### キャッシュ・フロー計算書（間接法）

（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

（単位：円）

（営業活動）		（投資活動）	
当期純利益	45,063,480	有形固定資産の取得による支出	△374,992,584
減価償却費	325,689,299	有形固定資産の売却による収入	0
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△583,829	国庫補助金による収入	78,000,000
受取利息及び受取配当	△261,435	一般会計補助金による収入	14,000,000
支払利息	44,985,220	加入者負担金収入	6,840,000
未収金の増減額(△は増額)	62,471,661	補償金収入	16,914,345
未払金の増減額(△は減少)	△21,009,204	未収金の増減額(△は増額)	12,189,058
たな卸資産の増減額(△は増加)	△957,191	未払金の増減額(△は減少)	△192,396,041
前払金の増減額	△913,000		<u>計</u> <u>△439,445,222</u>
引当金の増減額	△2,113,000	（財務活動）	
預り金の増減額	724,662	建設改良等の財源に充てるための企業債による収入	
長期前受補助金等戻入額	△186,538,076		251,000,000
固定資産除却費	7,037,528	建設改良等の財源に充てるための企業債の償還による支出	
	<u>小計</u> <u>273,596,115</u>		<u>△240,638,943</u>
利息及び配当金の受取額	261,435		<u>計</u> <u>10,361,057</u>
利息の支払額	△44,985,220		
	<u>計</u> <u>228,872,330</u>	現金及び現金同等物の増減額	△200,211,835
		現金及び現金同等物の期首残高	840,500,468
		現金及び現金同等物の期末残高	640,288,633

当年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、228,872,330円の黒字、投資活動によるキャッシュ・フローは439,445,222円の赤字、財務活動によるキャッシュ・フローは10,361,057円の黒字となり、当年度キャッシュ増減額は、期首キャッシュ残高840,500,468円に対し、期末残高は640,288,633円であり、200,211,835円の減少となる。

## (6) 審査所見

令和2年度より、上水道事業、簡易水道事業が統合し甲州市水道事業として、事業の一本化を行っている。その中で、事業収益は991,523,550円で前年度比4.1%減少となり、人口減少による水道使用量の減少や節水傾向の影響がうかがえる。給水収益や有収水量も減少し、厳しい経営環境にあると考えられる。

一方、営業費用は減少しましたが、営業外費用や特別損失の増加により当年度の純利益は、45,063,480円と前年度より大きく減少した。営業収支比率も低下しており、収支改善が課題とされている。

施設整備については、老朽管の更新や修繕が計画的に進められ、管路の新設や敷設延長などが実施された。有収率は77.4%と前年度より0.1ポイントであるが改善し、このような取り組みは、安定供給に向けた努力として評価できる。

今後は、利用者の減少が見込まれる中で、「甲州市水道ビジョン及び経営戦略」に基づき、計画的な施設整備・更新や効率的な運営、適正な料金設定や資金確保に取り組み、持続可能な経営に努められたい。

## 下水道事業会計

### (1) 業務の実績について

業務実績は、以下に示すとおりである。

#### 業務実績比較

区 分	単位	令和 6 年度	令和 5 年度	比較増減
水 洗 化 戸 数	戸	6,375	6,279	96
年 間 総 処 理 水 量	m <sup>3</sup>	1,881,240	1,755,671	125,569
一 日 平 均 排 水 量	m <sup>3</sup>	5,154	4,797	357

備考 給水戸数及び給水人口は、各年度末の数である。

下水道区域の水洗化戸数は 6,375 戸であり、前年度から 96 戸の増となった。詳細は、公共下水道事業が 5,420 戸、特定環境保全公共下水道事業が 447 戸、市設置型浄化槽事業が 508 戸である。

年間総処理水量は 1,881,240 m<sup>3</sup>で、前年度から 125,569 m<sup>3</sup>の増であり、一日平均排水量は 5,154 m<sup>3</sup>で、前年度から 357 m<sup>3</sup>の増である。

(2) 予算の執行状況について

予算及び決算の内容は、以下に示すとおりである。

なお、下記の表の金額には、消費税及び地方消費税が含まれている。

収益的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額の比較増減	収入率(B)/(A)
下水道事業収益	962,755,000	918,351,425	△ 44,403,575	95.4
営業収益	259,615,000	256,063,304	△ 3,551,696	98.6
営業外収益	703,140,000	661,218,658	△ 41,921,342	94.0
特別利益	0	1,069,463	1,069,463	—

収益的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	不用額	執行率(B)/(A)
下水道事業費用	954,531,000	884,963,840	69,567,160	92.7
営業費用	863,703,000	807,494,730	56,208,270	93.5
営業外費用	89,676,000	77,318,006	12,357,994	86.2
特別損失	152,000	151,104	896	99.4
予備費	1,000,000	0	1,000,000	0.0

事業収益は 918,351,425 円（うち仮受消費税及び地方消費税 23,228,856 円）で、予算額と比べ 44,403,575 円（4.6%）の減であり、事業費用は 884,963,840 円（うち仮払消費税及び地方消費税 19,416,992 円）で、予算額に対し 69,567,160 円（7.3%）の不用額が生じている。

## 資本的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額の比較増減	収入率(B)/(A)
資本的収入	578,361,000	491,509,200	△ 86,851,800	85.0
企業債	290,700,000	202,500,000	△ 88,200,000	69.7
補助金	34,401,000	34,607,250	206,250	100.6
負担金	8,260,000	9,401,950	1,141,950	113.8
他会計補助金	245,000,000	245,000,000	0	100.0

## 資本的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	不用額	執行率(B)/(A)
資本的支出	926,092,000	830,362,302	95,729,698	89.7
建設改良費	272,501,000	177,768,568	94,732,432	65.2
企業債償還金	652,594,000	652,593,734	266	100.0
予備費	997,000	0	997,000	0

資本的収入は 491,509,200 円で、予算額と比べ 86,851,800 円 (15.0%) の減であり、資本的支出は 830,362,302 円で、予算額に対し 95,729,698 円 (10.3%) の不用額が生じている。

### (3) 経営成績について

経営損益の状況は、以下に示すとおりである。

#### 比較損益計算書

(単位：円・%)

科目	区分	令和6年度 決算額	令和5年度 決算額	比較増減	前年度に対する 比率
下水道事業収益		902,260,917	960,384,113	△58,123,196	93.9
	営業収益	232,842,961	233,077,333	△234,372	99.9
	営業外収益	661,215,942	708,941,281	△47,725,339	93.3
	特別利益	8,202,014	18,365,499	△10,163,485	44.7
下水道事業費用		861,104,670	895,623,624	△34,518,954	96.1
	営業費用	786,546,126	812,235,227	△25,689,101	96.8
	営業外費用	74,409,504	82,255,458	△7,845,954	90.5
	特別損失	149,040	1,132,939	△983,899	13.2
	予備費	0	0	0	—
当年度純利益		41,156,247	36,591,742	△23,604,242	63.6

経営成績は、決算書の損益計算書のとおり、事業収益は902,260,917円で、前年度比58,123,196円(6.1%)の減であり、事業費用は861,104,670円で、前年度比34,518,954円(3.9%)減である。その結果、本年度の純利益は41,156,247円である。

#### ア 収益

営業収益は232,842,961円で、前年度比234,372円(0.1%)の減である。

詳細は、下水道使用料47,223円、その他営業収益185,423円の増、受託工事収益467,018円の減である。

営業外収益は661,215,942円で、前年度比47,725,339円(6.7%)の減である。

詳細は、受取利息及び配当金154,036円、長期前受金戻入3,347,575円、雑収益454,300円の増、他会計補助金50,500,000円、補助金1,181,250円の減である。

特別利益は8,202,014円で、前年度比10,163,485円(55.3%)の減である。

詳細は、過年度損益修正益10,163,485円の減である。

#### イ 費用

営業費用は786,546,126円で、前年度比25,689,101円(3.2%)の減である。

詳細は管渠費11,864,100円、減価償却費5,090,085円、受託工事費140,000円、流域下水道管理運営費負担金7,423,431円、処理場費2,040,018円、浄化槽費1,004,341円の減、総係費1,872,874円の増である。

営業外費用は74,409,504円で、前年度比7,845,954円(9.5%)の減である。

詳細は、支払利息及び企業債取扱諸費8,274,131円の減、雑支出428,177円の増である。

特別損失は149,040円で、前年度比983,899円の減である。

#### (4) 財政状況について

財政の状況は、以下に示すとおりである。

比較貸借対照表

(単位：円・%)

科目	区分	令和6年度 決算額	令和5年度 決算額	比較増減	前年度に対 する比率
借方(資産)		14,391,786,681	14,883,357,020	△491,570,339	96.7
	固定資産	14,120,716,331	14,495,486,928	△374,770,597	97.4
	流動資産	271,070,350	387,870,092	△116,799,742	69.9
貸方(負債・資本)		14,391,786,681	14,883,357,020	△491,570,339	96.7
	固定負債	4,314,695,113	4,710,391,329	△395,696,216	91.6
	流動負債	665,483,946	893,208,469	△227,724,523	74.5
	繰延収益	5,713,237,361	5,624,921,600	88,315,761	101.6
	資本金	3,429,505,258	3,429,505,258	0	100.0
	剰余金	268,865,003	225,330,364	43,534,639	119.3

財政状況は、決算書の貸借対照表のとおり、資産合計及び負債・資本合計は共に 14,391,786,681 円であり、前年度比 491,570,339 円 (3.3%) の減である。

#### ア 資産

固定資産は 14,120,716,331 円で、前年度比 374,770,597 円 (2.6%) の減である。

詳細は、機械及び装置 20,720,248 円の増、建設仮勘定 21,916,022 円、リース資産 1,656,000 円、建物 6,345,605 円、構築物 351,472,352 円、施設利用権 14,100,866 円の減である。

流動資産は 271,070,350 円で、前年度比 116,799,742 円 (30.1%) の減である。

詳細は、未収金 31,785,859 円の増、現金預金 148,585,601 円の減である。

#### イ 負債

固定負債は 4,314,695,113 円で、前年度比 395,696,216 円 (8.4%) の減である。

詳細は、企業債 394,040,216 円、リース債務 1,656,000 円の減である。

流動負債は 665,483,946 円で、前年度比 227,724,523 円 (25.5%) の減である。

詳細は、企業債 56,053,518 円、未払金 171,402,005 円、リース債務は昨年度と同額、引当金 269,000 円の減である。

繰延収益は 5,713,237,361 円で、前年度比 88,315,761 円 (1.6%) の増である。

詳細は、長期前受金 277,076,973 円の増、長期前受金収益化累計額 188,761,212 円の減である。

## ウ 資本

資本金は3,429,505,258円で前年度と同額である。

剰余金は268,865,003円で、前年度比43,534,639円（19.3%）の増である。

詳細は、資本剰余金2,378,392円、利益剰余金41,156,247円の増である。

## (5) 資金収支の状況について

資金収支の状況は、次表のとおりである。

### キャッシュ・フロー計算書（間接法）

（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

（単位：円）

（営業活動）		（投資活動）	
当期純利益	41,156,247	有形固定資産の取得による支出	△122,577,909
減価償却費	541,981,622	有形固定資産の売却による収入	0
貸倒引当金の増減額（△は減少）	84,690	無形固定資産の取得による支出	△39,211,516
受取利息及び受取配当	△155,837	無形固定資産の売却による収入	0
支払利息	68,903,850	未収金の増減額（△は増額）	△30,900,000
未収金の増減額（△は増額）	△970,549	未払金の増減額（△は減少）	△149,819,187
未払金の増減額（△は減少）	△21,582,818	国庫補助金による収入	31,461,137
引当金の増減額	△269,000	県補助金による収入	0
長期前受補助金等戻入額	△188,761,212	一般会計補助金による収入	233,796,432
固定資産除却費	0	分担金及び負担金による収入	8,776,196
その他流動負債の増減額	△1,656,000	<u>計</u>	<u>△68,474,847</u>
<u>小 計</u>	<u>438,730,993</u>		
		（財務活動）	
利息及び配当金の受取額	155,837	一時借入による収入	0
利息の支払額	△68,903,850	一時借入償還による支出	0
<u>計</u>	<u>369,982,980</u>	企業債による収入	202,500,000
		企業債の償還による支出	△652,593,734
		他会計からの出資による収入	0
		<u>計</u>	<u>△450,093,734</u>
		資金増加額（又は減少額）	△148,585,601
		資金期首残高	327,324,424
		資金期末残高	178,738,823

当年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、369,982,980 円の黒字、投資活動によるキャッシュ・フローは 68,474,847 円の赤字、財務活動によるキャッシュ・フローは 450,093,734 円の赤字となり、当年度キャッシュ増減額は、期首キャッシュ残高 327,324,424 円に対し、期末残高は 178,738,823 円であり、148,585,601 円の減少となる。

## (6) 審査所見

令和6年度の純利益は、41,156,247円となり、営業外収益により一定の収益は確保されたものの、営業収支比率は前年度を下回り、依然として厳しい経営状況が続いている。下水道使用料収益は、減少し、一人当たりの使用料収入及び処理水量もわずかに減少した。

水洗化の状況を見ると、下水道事業の水洗化戸数は前年度比74戸の減、利用人口は105人の減となっており、利用の伸び悩みがみられる。こうした状況を踏まえ、新規接続促進や啓発が引き続き課題である。

一方、浄化槽事業では、処理戸数が前年度比22戸増、収益は2.9%の増加となり、改善傾向がみられた。

施設整備については、公共枵の設置、マンホールポンプの通信機器の入替、公共施設の電気設備・火災報知器の更新・浄化槽の整備、調査設計業務などが計画的に実施されており、事業の継続性を支える取り組みが進められている。

今後も、「甲州市下水道事業経営戦略」に基づき、定期的な料金改定や経費削減を進め、財政基盤の強化と持続可能な経営体制の構築に努められたい。

## 勝沼ぶどうの丘事業会計

### (1) 業務の実績について

業務実績は、以下に示すとおりである。

#### 業務実績比較

(単位：人[延])

部 門		令和6年度	令和5年度	比較増減
施設 利用	宿 泊	10,988	11,357	△369
	休 憩 ・ 会 議	843	1,512	△669
	売 店	82,379	87,440	△5,061
	温 泉	59,047	51,475	7,572
	美 術 館	0	0	0
	ト ン ネ ル	0	0	0
	食 事	83,538	79,417	4,121
	レ ス ト ラ ン	26,542	26,715	△173
	宴 会	0	0	0
	バ ー ベ キ ュ ー	13,537	13,769	△232
	温 泉 ラ ウ ン ジ	18,244	19,605	△1,361
	美 術 館 カ フ ェ	0	0	0
	駅 ワ イ ン シ ョ ッ プ	16,340	10,783	5,557
	ト ン ネ ル	0	0	0
丘 庵	8,875	8,545	330	
利用者合計		236,795	231,201	5,594

年間の利用状況において、部門ごとの利用者数は合計 236,795 人で前年度と比較して 5,594 人の増である。

令和6年度において施設等の利用者が増加した要因としては、経営戦略の見直しとそれに基づく積極的な集客施策として、各種イベントの開催、SNS を活用した情報発信により幅広い世代の来訪が促されたことによるものと推察される。

(2) 予算の執行状況について

予算及び決算の内容は、以下に示すとおりである。

なお、下記の表の金額には消費税、地方消費税及び入湯税が含まれている。

収益的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額の比較増減	収入率(B)/(A)
事業収益	943,095,000	794,685,215	△148,409,785	84.3
営業収益	926,000,000	777,527,589	△148,472,411	84.0
営業外収益	17,095,000	17,157,626	62,626	100.4

収益的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	不用額	執行率(B)/(A)
事業費用	942,586,000	780,380,966	162,205,034	82.8
営業費用	916,680,000	754,656,366	162,023,634	82.3
営業外費用	25,805,000	25,724,600	80,400	99.7
特別損失	1,000	0	1,000	0.0
予備費	100,000	0	100,000	0.0

事業収益は794,685,215円(うち仮受消費税及び地方消費税68,822,256円、入湯税5,754,375円)で、予算額と比べ148,409,785円(15.7%)の減であり、事業費用は780,380,966円(うち仮払消費税及び地方消費税44,597,281円、消費税及び地方消費税相当額19,962,600円、入湯税5,754,375円)で、予算額に対し162,205,034円(17.2%)の不用額が生じている。

資本的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額 の比較増減	収入率(B)/(A)
資本的収入	1,000	0	△1,000	0
基金積立金利息	1,000	0	△1,000	0
一般会計補助金	0	0	0	-

資本的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	不用額	執行率 (B)/(A)
資本的支出	9,523,000	7,639,500	1,883,500	80.2
建設改良費	9,522,000	7,639,500	1,882,500	80.2
基金積立金	1,000	0	1,000	0

資本的収入は0円で、予算額と比べ1,000円(100.0%)の減であり、資本的支出は7,639,500円で、予算額に対し1,883,500円(19.8%)の不用額が生じている。

### (3) 経営成績について

経営損益の状況は、以下に示すとおりである。

#### 比較損益計算書

(単位：円・%)

科目	区分	令和6年度 決算額	令和5年度 決算額	比較増減	前年度に対 する比率
事業	収益	720,108,584	745,505,116	△25,396,532	96.6
	営業収益	702,956,958	733,267,247	△30,310,289	95.9
	営業外収益	17,151,626	12,237,869	4,913,757	140.2
事業	費用	710,066,710	737,263,120	△27,196,410	96.3
	営業費用	710,059,085	737,259,165	△27,200,080	96.3
	営業外費用	7,625	3,955	3,670	192.8
	特別損失	0	0	0	—
当年度純利益		10,041,874	8,241,996	1,799,878	121.8

決算書の損益計算書のとおり、事業収益は720,108,584円で、前年度比25,396,532円(3.4%)の減であり、事業費用は、710,066,710円で、前年度比27,196,410円(3.7%)の減である。

その結果、本年度の純利益は10,041,874円である。

#### ア 収益

営業収益は702,956,958円で、前年度比30,310,289円(4.1%)の減である。

詳細は、利用収益11,143,110円、その他営業収益1,499,774円の増、売店収益42,953,173円の減である。

営業外収益は17,151,626円で、前年度比4,913,757円(40.2%)の増である。

詳細は、受取利息及び配当金122,630円、他会計補助金4,954,689円の増、その他営業外収益163,562円の減である。

#### イ 費用

営業費用は710,059,085円で、前年度比27,200,080円(3.7%)の減である。

詳細は、施設経営費9,339,935円、減価償却費1,685,028円、資産減耗費62,225円、ワイン振興費4,983,060円の増、販売費43,270,328円の減である。

営業外費用は7,625円で、前年度比3,670円(92.8%)の増である。

詳細は、雑損失3,670円の増である。

#### (4) 財政状況について

財政の状況は、以下に示すとおりである。

比較貸借対照表

(単位：円・%)

科目	区分	令和6年度 決算額	令和5年度 決算額	比較増減	前年度に対 する比率
借方(資産)		904,913,820	895,259,953	9,653,867	101.1
	固定資産	635,533,157	635,574,029	△40,872	100.0
	流動資産	269,380,663	259,685,924	9,694,739	103.7
貸方(負債・資本)		904,913,820	895,259,953	9,653,867	101.1
	固定負債	21,262,340	10,348,800	10,913,540	205.5
	流動負債	49,718,060	56,709,835	△6,991,775	87.7
	繰延収益	52,699,383	57,009,155	△4,309,772	92.4
	資本金	589,779,039	589,779,039	0	100.0
	剰余金	191,454,998	181,413,124	10,041,874	105.5

財政状況については、決算書の貸借対照表のとおり、資産合計及び負債・資本合計は共に904,913,820円であり、前年度比9,653,867円(1.1%)の増である。

#### ア 資産

固定資産は635,533,157円で、前年度比40,872円の減である。

詳細は、有形固定資産として、工具器具及び備品657,455円の増、建物5,469,239円、建物付属設備3,721,896円、構築物1,706,485円、機械及び装置352,728円、リース資産4,749,179円、建設仮勘定462,000円の減、無形固定資産として、リース資産15,763,200円の皆増である。

流動資産は269,380,663円で、前年度比9,694,739円(3.7%)の増である。

詳細は、現金預金6,005,487円、未収金2,720,915円の減、貯蔵品18,421,141円の増である。

#### イ 負債

固定負債は21,262,340円で、前年度比10,913,540円(105.5%)の増である。

詳細は、長期リース負債10,913,540円の増である。

流動負債は49,718,060円で、前年度比6,991,775円(12.3%)の減である。

詳細は、預り金105,845円の増、未払金6,687,745円、入湯税409,875円の減、前受金は前年度と同額である。

繰延収益は、52,699,383円で、前年度比4,309,772円(7.6%)の減である。

#### ウ 資本

資本金は589,779,039円で、前年度と同額である。

剰余金は191,454,998円で、前年度比10,041,874円(5.5%)の増である。

詳細は、当年度未処分利益剰余金10,041,874円の増である。

(5) 資金収支の状況について

資金収支の状況は、次表のとおりである。

キャッシュ・フロー計算書（間接法）

（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

（単位：円）

（業務活動）		（投資活動）	
当年度純利益（△は純損失）	10,041,874	有形固定資産の取得による支出	△6,903,000
減価償却費	25,561,872	無形固定資産の取得による支出	△18,618,000
長期前受金戻入額	△4,309,772	有価証券の売却による支出	0
受取利息及び受取配当金	△254,706	有価証券の取得による支出	0
支払利息	0	保証金の返金による収入	0
固定資産除去損	0	国庫補助金等による収入	0
未収金の増減額（△は増額）	2,720,915	一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	0
未払い金の増減額（△は減少）	△7,097,620		0
たな卸資産の増減額（△は増加）	△18,421,141	積立基金への振替	0
引当金の増減額（△は減少）	0	積立基金の増減額	0
前受金の増減額	0	施設準備基金の増減額	0
預り金の増減額	105,845	<u>計</u> <u>△25,521,000</u>	
長期リース負債の増減額	10,913,540		
前払金の増減額（△は増加）	0	（財務活動）	
未払消費税等の増減額（△は減少）	0	財務活動によるキャッシュフロー	0
小計	<u>19,260,807</u>		
利息及び配当金の受取額	254,706	資金増加額（又は減少額）	△6,005,487
利息の支払額	0	資金期首残高	197,399,203
計	<u>19,515,513</u>	資金期末残高	191,393,716

当年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、19,515,513 円の黒字、投資活動によるキャッシュ・フローは 25,521,000 円の赤字、財務活動によるキャッシュ・フローは 0 円となり、当年度キャッシュ増減額は、期首キャッシュ残高 197,399,203 円に対し、期末残高は 191,393,716 円であり、6,005,487 円の減少となる。

## (6) 審査所見

令和6年度の決算状況は、純利益10,041,874円を確保した。営業収益は702,956,958円で前年度比30,310,289円の減となり、事業の収支は引き続き厳しい状況にあるが、営業費用の抑制もあり、営業収支比率は99%と一定の収支バランスは保たれている。これは、事業全体を精査し経費削減に取り組んだ結果と評価できる。

経営面では、夏季に南海トラフ地震に関する報道や記録的な猛暑の影響により、来客が減少したほか、物価高騰と消費者の節約志向が重なり、昨年度に引き続き、厳しい経営環境が続いた。

一方、地元食材を活かしたメニュー開発や、プレミアムワインの拡充、多彩なイベントの開催、LINEやその他のSNSを活用した情報発信の強化などにより、利用者数の回復と売上確保に繋がっていることから、こうした取り組みの一定の効果が表れていると評価できる。

今後も甲州市勝沼町の立地特性を最大限に活かし、地域の観光拠点として役割を果たすべく、市場の需要動向に応じた事業運営と収益向上に努められたい。



## 勝沼病院事業会計

### (1) 業務の実績について

業務実績は、以下に示すとおりである。

#### 業務実績比較

区 分	単位	令和 6 年度		令和 5 年度		比較増減	
		入院患者	外来患者	入院患者	外来患者	入院患者	外来患者
年 間 延 人 数	人	10,680	14,003	10,416	14,115	264	-112
1 日 平 均	人	29.3	47.6	28.5	48.0	0.8	-0.4
病 床 利 用 率	%	75.0	—	73.0	—	2.0	—
診 察 日 数	日	—	293	—	294	—	-1.0

入院患者は延べ 10,680 人で前年度と比較して 264 人（1 日平均 0.8 人）の増、外来患者は延べ 14,003 人で前年度比 112 人（1 日平均 0.4 人）の減、病床利用率は 75.0%で前年度比 2.0%の増である。

## (2) 予算の執行状況について

予算及び決算の内容は、以下に示すとおりである。

なお、下記の表の金額には、消費税及び地方消費税が含まれている。

### 収益的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額の比較増減	収入率(B)/(A)
病院事業収益	23,479,000	23,325,781	△153,219	99.3
医業外収益	23,479,000	23,325,781	△153,219	99.3

### 収益的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	不用額	執行率(B)/(A)
病院事業費用	23,479,000	23,291,348	187,652	99.2
医業費用	21,077,000	20,926,394	150,606	99.3
医業外費用	2,401,000	2,364,954	36,046	98.5
予備費	1,000	0	1,000	0

事業収益は 23,325,781 円で、予算額と比べ 153,219 円 (0.7%) の減であり、事業費用は 23,291,348 円 (うち仮払消費税及び地方消費税 164,000 円) で、予算額に対し 187,652 円 (0.8%) の不用額が生じている。

## 資本的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額 の比較増減	収入率(B)/(A)
資本的収入	8,634,000	8,545,120	△88,880	99.0
一般会計負担金	8,588,000	8,533,000	△55,000	99.4
企業債	0	0	0	—
基金積立金利息	46,000	12,120	△33,880	26.3

## 資本的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	不用額	執行率(B)/(A)
資本的支出	26,088,000	25,800,624	287,376	98.9
建設改良費	19,690,000	19,437,000	253,000	98.7
企業債償還金	6,352,000	6,351,504	496	100.0
基金積立金	46,000	12,120	33,880	26.3

資本的収入は 8,545,120 円で、予算額と比べ 88,880 円 (1.0%) の減であり、資本的支出は 25,800,624 円で、予算額に対し 287,376 円 (1.1%) の不用額が生じている。

### (3) 経営成績について

経営損益の状況は、以下に示すとおりである。

#### 比較損益計算書

(単位：円・%)

科目	区分	令和6年度 決算額	令和5年度 決算額	比較増減	前年度に対 する比率
病院事業収益		23,325,781	21,296,134	2,029,647	109.5
	医業収益	0	0	—	—
	医業外収益	23,325,781	21,296,134	2,029,647	109.5
病院事業費用		23,127,348	21,109,304	2,018,044	109.6
	医業費用	20,762,394	19,489,223	1,273,171	106.5
	医業外費用	2,364,954	1,620,081	744,873	146.0
当年度純利益		198,433	186,830	11,603	106.2

病院事業会計では、財産管理業務を行っている。

医療業務に関しては、公益財団法人山梨厚生会が指定管理者制度に基づき運営している。

#### ア 収益

医業外収益は23,325,781円で、前年度比2,029,647円(9.5%)の増である。

詳細は、受取利息及び配当金32,755円、他会計負担金2,189,000円の増、長期前受金戻入192,108円の減である。

#### イ 費用

医業費用は20,762,394円で、前年度比1,273,171円(6.5%)の増である。

詳細は、減価償却費1,293,171円の増、修繕費20,000円の減である。

医業外費用は2,364,954円で、前年度比744,873円(46.0%)の増である。

詳細は、支払利息124,452円の減で、雑損失869,325円の増である。

#### (4) 財政状況について

財政の状況は、以下に示すとおりである。

比較貸借対照表

(単位：円・%)

科目	区分	令和6年度 決算額	令和5年度 決算額	比較増減	前年度に 対する比率
借方(資産)		513,733,344	516,564,709	△2,831,365	99.5
	固定資産	447,800,499	448,912,837	△1,112,338	99.8
	流動資産	65,932,845	67,651,872	△1,719,027	97.5
貸方(負債・資本)		513,733,344	516,564,709	△2,831,365	99.5
	固定負債	22,791,447	28,062,516	△5,271,069	81.2
	流動負債	5,271,069	6,351,504	△1,080,435	83.0
	繰延収益	42,401,919	39,092,333	3,309,586	108.5
	資本金	354,507,213	354,507,213	0	100.0
	剰余金	88,761,696	88,551,143	210,553	100.2

財政状況については、決算書の貸借対照表のとおり、資産合計及び負債・資本合計は共に513,733,344円であり、前年度比2,831,365円(0.5%)の減である。

#### ア 資産

固定資産は447,800,499円で、前年度比1,112,338円(0.2%)の減である。

詳細は、建物7,959,217円、建物付属設備2,729,313円、構築物1,711,464円の減、器具備品11,275,536円、基金積立金12,120円の増である。

流動資産は65,932,845円で、前年度比1,719,027円(2.5%)の減である。

詳細は、現金及び預金の1,719,027円の減である。

#### イ 負債

固定負債は22,791,447円で、前年度比5,271,069円(18.8%)の減である。

詳細は、企業債5,271,069円の減である。

流動負債は5,271,069円で、前年度比1,080,435円(17.0%)の減である。

詳細は、企業債の1,080,435円の減である。

繰延収益は42,401,919円で、前年度比3,309,586円(8.5%)の増である。

詳細は、長期前受金8,533,000円の増、収益化累計額5,223,414円の減である。

#### ウ 資本

資本金は354,507,213円で、前年度と同額である。

剰余金は88,761,696円で、前年度比210,553円(0.2%)の増である。

詳細は、資本剰余金12,120円、利益剰余金198,433円の増である。

(5) 資金収支の状況について

資金収支の状況は、次表のとおりである。

キャッシュ・フロー計算書（間接法）

（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

（単位：円）

（業務活動）		（投資活動）	
当年度純利益	198,433	有形固定資産の取得による支出	△17,670,000
減価償却費	18,794,458	有形固定資産の売却による収入	0
固定資産除去損	0	国庫補助金等による収入	0
長期前受金戻入額	△5,223,414	一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	8,533,000
受取利息及び受取配当金	△33,367	<u>計</u> <u>△9,137,000</u>	
支払利息	433,954	（財務活動）	
未払金の増減額（△は減少）	0	建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	0
<u>小計</u> <u>14,170,064</u>		建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△6,351,504
利息及び配当金の受取額	33,367	<u>計</u> <u>△6,351,504</u>	
利息の支払額	△433,954	資金増減額（又は減少額）	△1,719,027
<u>計</u> <u>13,769,477</u>		資金期首残高	67,651,872
		資金期末残高	65,932,845

当年度の業務活動によるキャッシュ・フローは13,769,477円の黒字、投資活動によるキャッシュ・フローは9,137,000円の赤字、財務活動によるキャッシュ・フローは6,351,504円の赤字となり、当年度キャッシュ増減額は、期首キャッシュ残高67,651,872円に対し、期末残高は65,932,845円となり、1,719,027円の減少となる。

## (6) 審査所見

令和6年度の決算状況については、予算に基づいた執行がなされていた。

物価高騰やエネルギー資材費の上昇、設備の老朽化による修繕費増加などが、施設の運営にも影響を与えている。

一方、入院患者は延べ10,680人、病床利用率は75.0%と前年より改善がみられた。外来患者も14,003人と一定の水準を維持しており、地域の医療機関としての役割を果たしていると評価できる。

医療・介護の需要が今後さらに増加すると見込まれる中、勝沼病院は地域における中核的な医療機関として、入院医療のみならず、感染症対応や在宅医療の提供体制の充実など、役割と機能の強化が求められている。引き続き、「甲州市地域医療体制基本計画（甲州市立勝沼病院経営強化プラン）」に基づき、地域ニーズに応じた機能の明確化や設備の更新、関係機関との連携強化を図りながら、持続可能な地域医療提供体制の確保に努められたい。